

第七章 折尾地区のブランド化とその方向性

吉 田 潔

1. はじめに

第六章において、折尾地区の研究開発拠点としての評価と展望について検討を加えた。

その結果、折尾地区は「市内において人を惹き付けることが出来る地域はそんなにはない。観光客ならば、門司港レトロである。21世紀の知識情報社会において、その担い手は創造的人材“Creative Class”であるといわれている。この創造的人材を大規模に集客できる地域はここ折尾しかない。この地域を一体的に開発し運用することで、西日本有数の『知のるつぼ“Melting Pot”』にすることが期待されている」と結論づけられた。

この分析結果は、北九州学研都市内および学研都市外の折尾地区における研究者(大学、企業)に対するアンケート調査によるものである。いわば、研究者がみた学研都市、折尾地区の評価から導き出されたものといえる。

では、一般の市民はこの折尾地区、学研地区をどう評価しているのであろうか。研究者の見方やイメージの差はどのようなところにあるのであろうか。

本章では、これらの点を明らかにするために、北九州市内に在住するクリエイティブクラスを形成する層に対してインターネットリサーチを実施し、そのイメージ構造を明らかにしてみたい。

2. 調査研究の方法及び回答者の属性

(1) 調査の方法

学研都市が立地する折尾地区北側には、現在良質な住宅地が形成されつつある。この地区イメージを測定するにあたり、これに対比すべき地区として小倉南区の東側地区と比較したい。しかし、インターネットリサーチの回答者数(登録者数)が、折尾北側地区と小倉南区東側地区で十分確保されていない。このため、回答者の居住条件を八幡西区居住者または小倉南区居住者とし、それぞれ100サンプルの確保を目指した。

対象者のスクリーニング条件は下記の通りである。

- ・調査方法： インターネットリサーチ
- ・期間： 平成22年3月10～20日
- ・回答者の条件： 職業 公務員、経営者・役員、会社員(事務系)、会社員(技術系)で正社員であること。
性別 男女問わず。
年代 20～69歳
居住地 小倉南区居住者または八幡西区居住者
- ・サンプル数： 202サンプル＝小倉南区居住者(99s)、八幡西区居住者(103s)

(2) 回答者の属性

① 基本属性

回答者の基本的な属性をみておく。

性別は、約7対3で「男性」が多い。既婚者の割合は、65%であった。年代は、「30～34歳」が最も多く、20%を占めている。それ以外は、55歳以上が少ないものの各年代層にわたっている。女性は30歳代までの比較的若い層が多い。

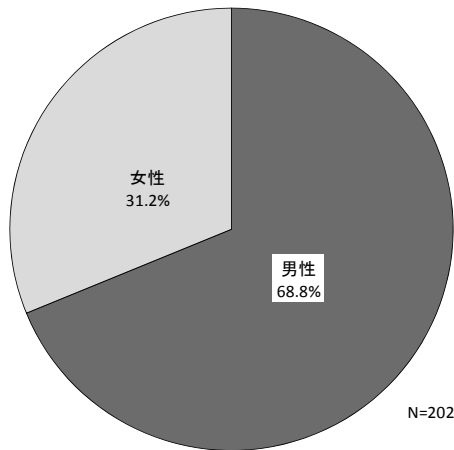


図 7-1 性別

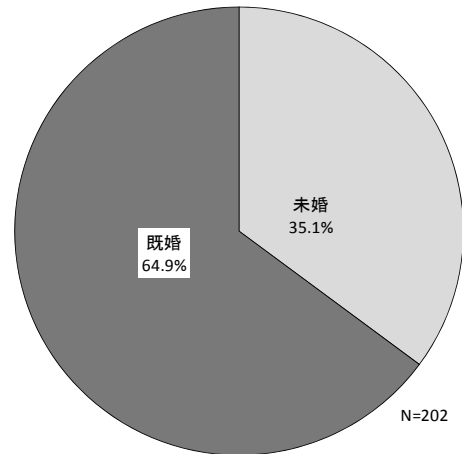


図 7-2 未既婚

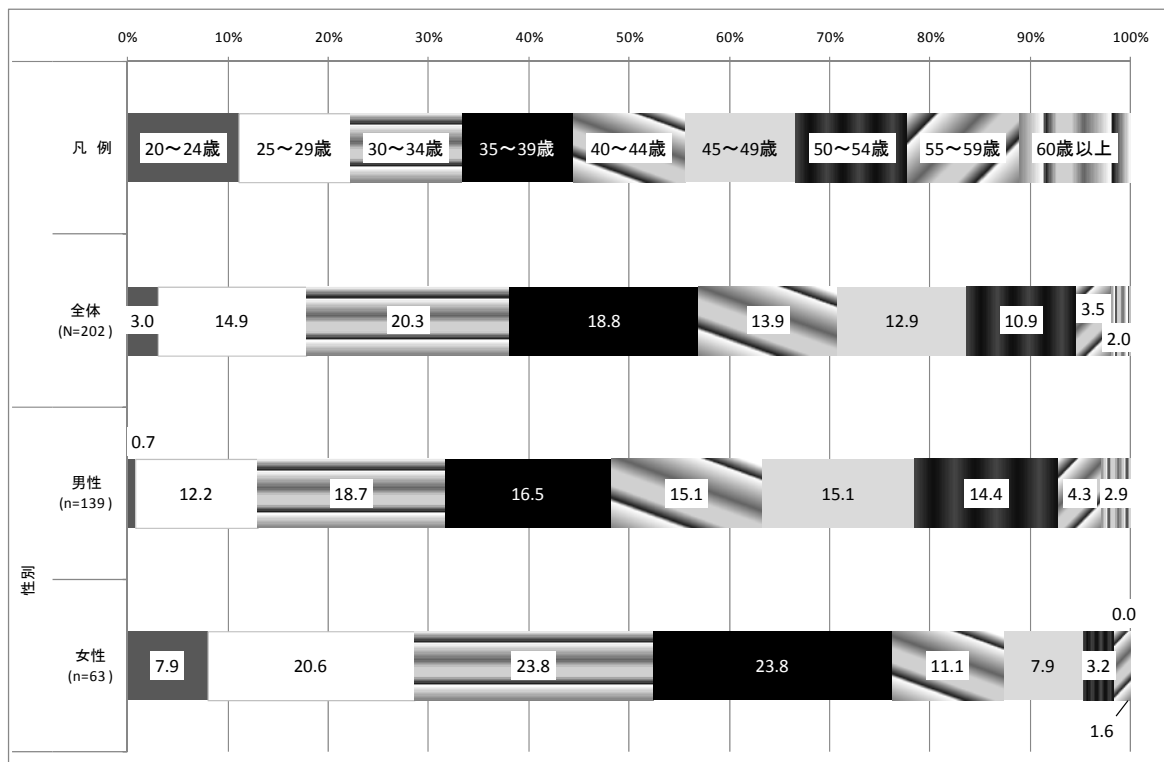


図 7-3 年代

対象者の職業は、いわゆるホワイトカラー層で正社員をスクリーニング条件としているため、「会社員(事務系)」が 35%と最も多く、「会社員(技術系)」「会社員(その他)」が続く。

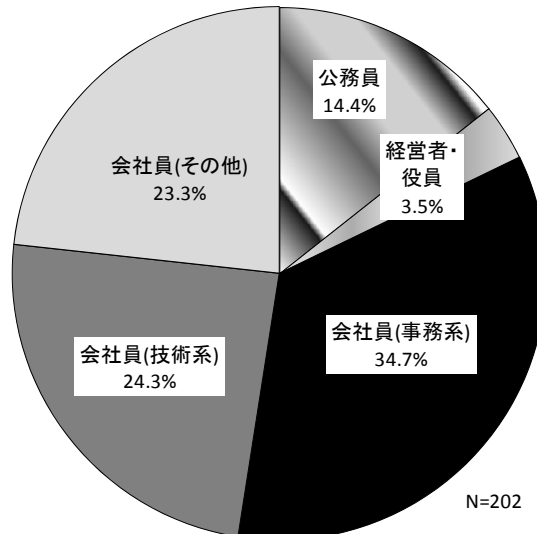


図 7-4 職業

②居住地と勤務地の関係

居住地をみると、小倉南区は「モノレールから東側に居住」する割合が 33%、「モノレールから西側居住」は 16%であり、八幡西区では「JR 鹿児島本線から南側居住者」が 37%、学研都市が所在する「北側居住者」は、やや少なく 14%であった。

勤務地は、「小倉中心市街地近辺」が最も多く 32%である。

居住地と勤務地の関係をみると次ページの図のようになる。学研都市がある「八幡西区北側居住者」は、「折尾地区近辺」へ勤務する割合が 46%であり、小倉南区居住者が「小倉中心市街地近辺」へ勤務する割合(東側居住者 49%、西側居住者 66%)に比べてやや低い。小倉南区東側地区居住者に「その他」が 51%と多いのは、自動車関連企業が集積する苅田地区への勤務者が多いためと思われる。

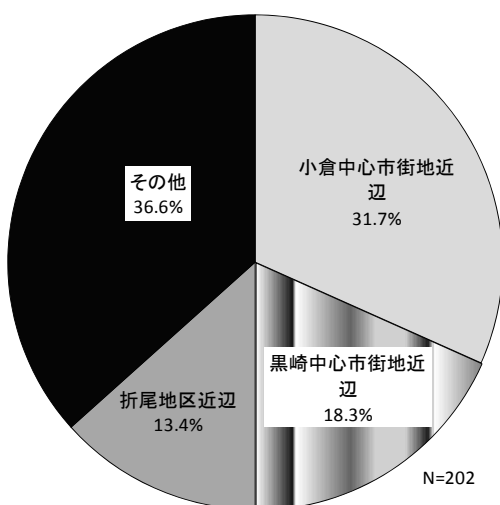


図 7-5 居住地

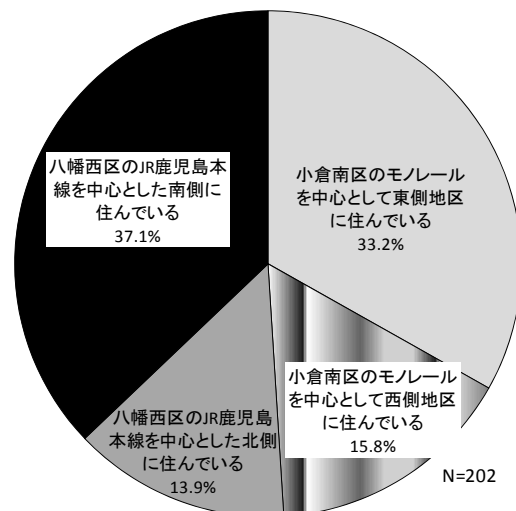


図 7-6 勤務地



図 7-7 小倉南区の地区区分

(注)点線圏内=小倉南区のモノレールを中心とした西側地区

一点鎖線圏内=小倉南区のモノレールを中心とした東側地区



図 7-8 八幡西区の地区区分

(注)点線圏内=八幡西区の JR 鹿児島本線を中心とした北側地区

一点鎖線圏内=八幡西区の JR 鹿児島本線を中心とした南側地区

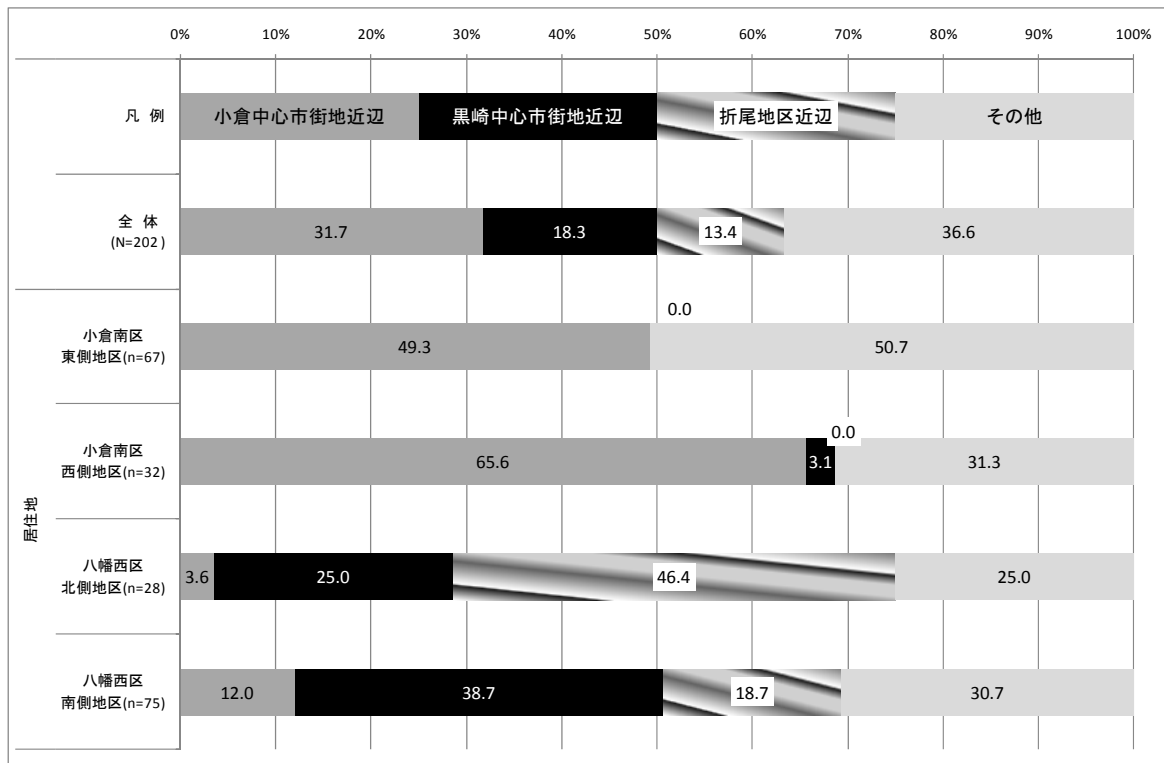


図 7-9 居住地と勤務地の関係

3. 調査結果

(1) 居住地区のイメージ

① 居住地区の愛着度

現在住んでいる地区にどの程度愛着があるかを聞いている。

全体では、74%（「どちらかといえば」を含む）が、自分が住む地区への愛着を感じている。ただし、「愛着を感じる」だけをみると、「八幡西区北側居住者」が 43%と最も高く、注目される。

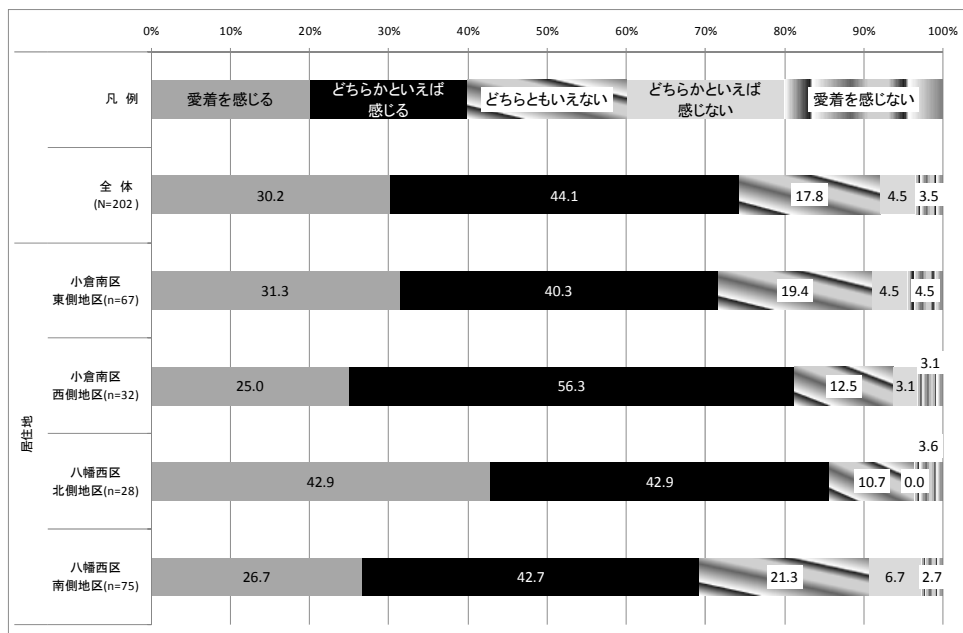


図 7-10 居住地別にみた地区の愛着度

②居住地区のイメージ分析～その1～

地域のイメージを構成する要因(変数)は、「地域ブランド資産」と「地域ブランド価値」とで構成されるという考え方があるⁱⁱ。本調査ではこの概念を援用し、地域ブランドを構成する要因をこの2つの側面から調査し、因子分析手法を用いて分析した。

なお、因子分析の結果をみる前に、居住地の住み心地についてみておく。

住みやすさを居住地別にみると、おおむねどの地区も「住みやすい(「やや」を含む)」は、7割を超えて高い水準を示している。特に、小倉南区東側居住者と八幡西区北側地区居住者は8割を超えている。この両地区は比較的新しく住宅地が整備された地区という共通点があるが、中でも学研都市が立地する八幡西区北側居住者の「住みやすい」と高く評価する割合が最も高いことに注目される。学研都市(所在地は若松区)を中心として街区が整備されたことによるものと思われる。

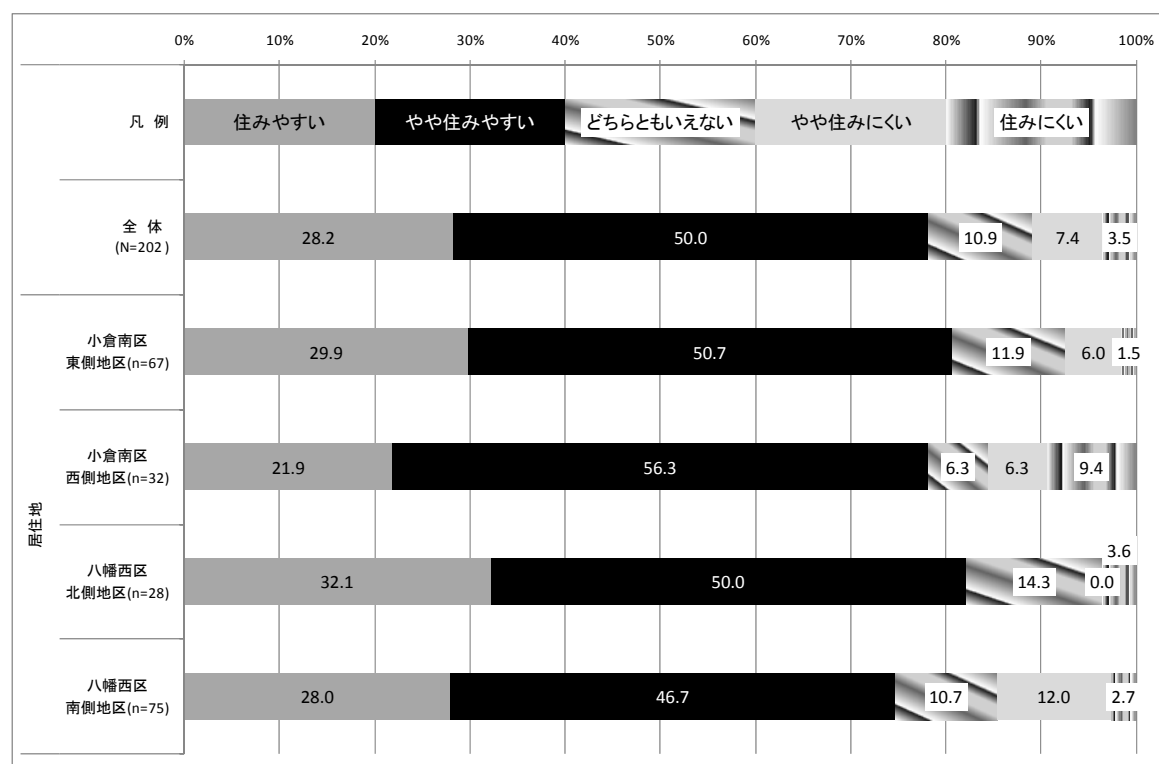


図 7-11 居住地別にみた地区の住みやすさ評価

次に因子分析結果である。

地域ブランド資産の側面から居住地別にみている。

自分の住む地区についてのイメージ項目を変数として因子分析を行なった。ただ、小倉南区居住者と八幡西区居住者を合計して分析することは意味がないので、データ数の関係もあって、小倉南区居住者と八幡西区居住者に大別して因子分析を行なった。ⁱⁱⁱ

「4 芸術や伝統芸能などの文化に対する住民の興味が深い」「3 地域に受け継がれている独自の芸術や伝統芸能がある」「8 歴史上有名なストーリーがある」「25 伝統的な郷土料理がある」などが高い負の因子負荷量を示しており、これは、小倉南区が歴史や伝統性に欠けることを示す「非歴史伝統資産」を表す因子といえる。

第2因子には、「11 物価が高くなく、生活費の負担が少ない」「14 交通渋滞が少ない」「31 美しい公園や自然施設がある」「24 地域固有の特産品(農産物、海産物、畜産物、酒など)がある」「33 身近に公園や緑、海山などがある」「17 医療・福祉機関が充実している」といった変数の因子負荷量が正の値で高い。「居住環境資産」を表す因子と解釈できる。

第3因子は、第1因子同様の変数「7 歴史的なまち並みが残っている」「1 歴史を感じさせる場所がある」が負の因子負荷量を示している。「非歴史資産」因子である。

第4因子は、「29 住民同士が交流できる場がある」「28 住民と訪問者が触れ合うことができる雰囲気がある」という変数で構成されている。特に前者は、因子負荷量が1.0を超えて大変高い。「コミュニティ資産」と名づける所以である。

第5因子は、「32 美しいまち並みがある」「15 子育てしやすい環境である」という変数であり、家庭生活を形づくる重要な要因である。したがって、「家庭生活資産」因子といえることができる。

ところが、第6因子では、「18 働く場が充実している」「16 教育機関が充実している」が負の因子負荷量を示している。教育を受けて卒業して経済的な基盤を形成する働く場(企業など)が区内には少ないということを表している。「非経済資産」因子としている。

表 7-1 地域ブランド資産の因子分析結果(小倉南区居住者)

小倉南区居住者(n=99)						
変数名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
	非歴史伝統資産	居住環境資産	非歴史資産	コミュニティ資産	家庭生活資産	非経済資産
4芸術や伝統芸能などの文化に対する住民の興味が高いと思う	-0.8357	0.1545	-0.0702	0.2020	0.1005	-0.0384
3地域に受け継がれている独自の芸術や伝統芸能があると思う	-0.6082	0.0135	-0.2416	0.0317	-0.0345	0.0272
8歴史上有名なストーリーがあると思う	-0.5408	-0.1548	-0.2835	-0.0991	0.1990	0.1215
25伝統的な郷土料理があると思う	-0.4370	0.3253	-0.5978	0.2026	-0.0967	0.0561
11物価が高くなく、生活費の負担が少ないと思う	0.0445	0.5384	0.0483	0.3295	0.0486	0.1125
14交通渋滞が少ないと思う	0.0200	0.4746	0.1950	0.1001	0.0590	-0.0527
31美しい公園や自然施設があると思う	-0.1129	0.4410	-0.2022	0.0913	0.2824	0.0675
24地域固有の特産品(農産物、海産物、畜産物、酒など)があると思う	-0.3416	0.4259	-0.0896	0.0244	0.1314	0.0009
33身近に公園や緑、海山などがあると思う	-0.0814	0.4209	-0.0787	0.0097	0.2283	0.0357
17医療・福祉機関が充実していると思う	0.0340	0.4077	-0.0973	0.1569	-0.0093	-0.3988
7歴史的なまち並みが残っていると思う	-0.1691	0.0081	-0.7491	-0.0009	0.0473	-0.1247
1歴史を感じさせる場所があると思う	-0.2856	-0.0092	-0.7143	0.0946	0.1812	-0.1532
29住民同士が交流できる場があると思う	0.0630	0.1348	-0.0999	1.0072	0.1752	0.0453
28住民と訪問者が触れ合うことができる雰囲気があると思う	-0.2012	0.1658	-0.1141	0.4108	0.0376	-0.0135
32美しいまち並みがあると思う	-0.0641	0.1686	-0.1341	0.0072	0.8988	-0.0976
15子育てしやすい環境であると思う	-0.0486	0.3542	-0.0300	0.2100	0.4299	-0.1486
18働く場が充実していると思う	0.0588	-0.0476	-0.0492	-0.0319	-0.0055	-0.5175
16教育機関が充実していると思う	-0.0950	0.3757	0.1837	0.1238	0.3452	-0.5089
13居住費や家賃が高いと思う	0.0788	-0.0483	-0.0449	-0.1328	0.0806	-0.3434
2伝統文化の保存に積極的であると思う	-0.2559	-0.0241	-0.0941	0.1323	-0.0066	-0.3407
19地域内での交通機関が発達していて、移動に便利だと思う	0.0764	0.3947	-0.1290	0.0031	-0.0853	-0.3238
20大学や研究所が充実していると思う	-0.1886	0.0971	0.1047	0.2978	-0.0847	-0.2858
9地域で受け継がれている生活文化があると思う	-0.3667	0.3644	-0.2040	0.2854	0.3139	0.0690
12一戸建ての家を取得しやすい環境であると思う	-0.1309	0.1999	0.1314	0.2024	0.2247	0.1485
二乗和	2.1296	2.0722	1.8527	1.7439	1.5644	1.2474
寄与率	0.0887	0.0863	0.0772	0.0727	0.0652	0.0520
累積寄与率	0.0887	0.1751	0.2523	0.3249	0.3901	0.4421

次に八幡西区居住者について同様にみていく。

「28 住民と訪問者が触れ合うことができる雰囲気がある」「27 世代を超えた交流がある」「26 人と人との交流が活発な地域である」「22 おいしい料理がある」「29 住民同士が交流できる場がある」「21 食べ物がおいしい」といった変数で第1因子が構成されている。おいしい食べ物などを楽しみながら人々が交流する姿が浮かぶ。まさに「コミュニティ資産」因子である。

第2因子は、「4 芸術や伝統芸能などの文化に対する住民の興味が深い」「5 芸術や伝統芸能などの文化的な活動が盛んである」「23 その地域を代表する食べ物がある」など伝統芸能や芸術文化(食文化を含む)を表す因子である。黒崎祇園、折尾の神楽などの伝統行事が意識されているものと思われる。したがって、これは明らかに「文化芸術伝統資産」因子といえることができる。

第3因子は、「16 教育機関が充実している」「20 大学や研究所が充実している」「17 医療・福祉機関が充実している」「15 子育てしやすい環境である」「31 美しい公園や自然施設がある」など北側には学研都市が所在し、南側には大規模病院が存在する(生活基盤)ことを評価する因子、「教育生活資産」因子といえることができる。

第4因子は第2因子と近似しているが、「1 歴史を感じさせる場所がある」「2 伝統文化の保存に積極的である」「9 地域で受け継がれている生活文化がある」などと歴史と伝統の要素が強くあらわれているように思われる。

第5因子は、「12 一戸建ての家を取得しやすい環境である」「11 物価が高くなく、生活費の負担が少ない」と、「生活資産」を表す因子である。

第6因子は、「14 交通渋滞が少な

表 7-2 地域ブランド資産の因子分析結果(八幡西区居住者)

い」「10 芸術家や文化人に好まれる場所がある」という縁数で構成されており、道路が車で混んでなく、閑静な住宅地であるため芸術家や文化人に好まれる場所でもあることを表しているようである。「生活環境資産」を表す因子である。

変数名	八幡西区居住者(n=103)					
	第1因子 コミュニティ資産	第2因子 文化芸術資産	第3因子 教育生活資産	第4因子 歴史伝統資産	第5因子 生活資産	第6因子 生活環境資産
28住民と訪問者が触れ合うことができる雰囲気があると思う	0.6847	0.0004	-0.1350	-0.1230	0.0528	-0.0225
27世代を超えた交流があると思う	0.6179	0.0021	-0.0010	-0.0064	-0.1361	0.0158
26人と人との交流が活発な地域であると思う	0.5826	-0.0487	0.2171	-0.0338	0.0979	0.0638
22おいしい料理があると思う	0.5727	0.2800	0.1539	0.0366	0.3514	0.1189
29住民同士が交流できる場があると思う	0.5501	-0.0888	-0.0589	0.2463	-0.0055	-0.0415
21食べ物がおいしいと思う	0.4122	0.2121	0.1562	0.0406	0.4325	0.0057
4芸術や伝統芸能などの文化に対する住民の興味が深いと思う	-0.0330	0.9471	0.0852	0.0523	0.0328	-0.0894
5芸術や伝統芸能などの文化的な活動が盛んであると思う	-0.0791	0.6052	-0.0280	0.0641	0.0544	0.2298
23その地域を代表する食べ物があると思う	-0.0543	0.5306	0.0090	0.1412	0.5609	-0.1504
16教育機関が充実していると思う	-0.0648	0.1078	0.6113	0.0296	-0.1313	-0.0486
20大学や研究所が充実していると思う	-0.0451	-0.1250	0.5165	0.0785	0.2084	-0.0803
17医療・福祉機関が充実していると思う	0.0719	0.0943	0.4930	-0.1791	0.1237	-0.1489
15子育てしやすい環境であると思う	0.2000	0.1127	0.4397	0.0206	0.0565	0.3748
31美しい公園や自然施設があると思う	0.1254	0.1097	0.4010	0.1669	0.0410	-0.0759
1歴史を感じさせる場所があると思う	0.0799	0.1966	-0.0270	0.7858	-0.2271	-0.0387
2伝統文化の保存に積極的であると思う	-0.0710	0.3004	-0.0196	0.4667	-0.0109	-0.0813
9地域で受け継がれている生活文化があると思う	0.0494	0.0157	0.2563	0.4282	-0.0924	0.4657
12一戸建ての家を取得しやすい環境であると思う	0.2104	-0.1055	0.0569	0.0273	0.5674	0.3664
11物価が高くなく、生活費の負担が少ないと思う	0.1784	-0.0184	0.3678	-0.1207	0.4453	-0.0922
14交通渋滞が少ないと思う	0.0347	-0.0395	0.0306	0.0166	-0.0161	0.5256
10芸術家や文化人に好まれる場所があると思う	-0.0319	0.1129	-0.0776	0.1024	0.0809	0.4940
7歴史的なまちなみや残っていると思う	0.0571	0.0182	0.0003	0.3452	0.0380	0.1563
18働く場が充実していると思う	-0.0353	-0.0101	0.2744	-0.0184	-0.0026	0.1169
33身近に公園や緑、海山などがあると思う	0.0897	0.0632	0.3707	0.3606	0.2988	0.0556
25伝統的な郷土料理があると思う	-0.0582	-0.0531	0.0569	0.3505	0.2846	-0.0143
3地域に受け継がれている独自の芸術や伝統芸能があると思う	0.1395	0.3260	0.1329	0.0754	-0.0818	-0.0153
13居住費や家賃が高いと思う	0.0827	-0.0112	0.0669	0.0843	-0.1591	-0.0893
8歴史上有名なストーリーがあると思う	-0.0423	-0.0340	-0.0263	0.2074	0.0668	-0.2324
32美しいまちなみや残っていると思う	-0.0227	-0.0764	0.2343	0.2269	0.3297	-0.2899
19地域内での交通機関が発達していて、移動に便利だと思う	0.0911	0.1524	0.2331	0.0394	-0.1679	-0.4068
二乗和	2.2129	2.0381	1.9230	1.7000	1.6733	1.5224
寄与率	0.0738	0.0679	0.0641	0.0567	0.0558	0.0507
累積寄与率	0.0738	0.1417	0.2058	0.2625	0.3182	0.3690

以上地域資産の側面から小倉南区と八幡西区を比較してみると、小倉南区は、歴史や伝統に恵まれていないために(「非歴史伝統資産」)、地域の独自性が発揮できていないようである。しかし、モノレールが通っているためもあって、「居住環境資産」「家庭生活資産」は形成されており、そのことから「コミュニティ資産」も形づくられているものと思われる。しかし、住宅地であるために企業の集積は少なく、教育・研究機関も北九州市立大学や北九州高専、九州ポリテクカレッジがあるくらいで、「非経済資産」を負っていることは否めない。

これに対して、八幡西区、特に南側では1960年代頃から新しい住宅地が開発され、これが連綿として継続されて、近年では北側地区にも良好な住宅地開発が及ぶようになった。このため、地域の「コミュニティ資産」が重要な位置を占めることとなっている。また、先にふれたように様々な祭りや黒崎街道などの遺産・遺跡が継承されているために「文化芸術伝統資産」が大きな位置を占めている。

そして、特筆すべきは、「教育生活資産」が第3因子として大きなウェイトを占めていることである。これは明らかに学研都市内の大学・研究機関、折尾地区の諸大学がブランド資産を当地区に与えたためである。教育・研究機能が当地区のブランド資産形成に大きな影響を与えていることの証明である。

②居住地区のイメージ分析～その2～

「地域ブランド価値」の側面から同様に小倉南区居住者と八幡西区居住者の地区イメージの因子分析を行なった結果をみてみる。

表 7-3 地域ブランド価値の因子分析結果(小倉南区居住者)

まず、小倉南区居住者の地区イメージである。第1因子に「10 感性が刺激される」「3 人と人の心のつながりが感じられる」「17 人生観を変えることができる」「2 人とのふれあいを感じられる」「15 自分の知識や視野を広げてくれる」「4 その地域の仲間としての連帯感を感じられる」「5 人に対して優しくなれる」といったように、先にみた「居住環境資産」「家庭生活資産」から「コミュニティ資産」が形成されている

ため、ここでは人と人との「関係絆価値」ともいべき因子が形成されている。

第2因子は、「12 ステータスやプライドを感じられる」「13 知的な気分を味わえる」「9 刺激が得られる」「15 自分の知識や視野を広げてくれる」など、関係絆価値をさらに発展させた「自己実現価値」が形成されているとみるべきであろう。

変数名	小倉南区居住者(n=99)			
	第1因子 関係絆価値	第2因子 自己実現価値	第3因子 感覚情緒価値	第4因子 非ゆとり価値
3人と人の心のつながりが感じられると思う	0.7943	-0.1464	0.0954	-0.2156
2人とのふれあいを感じられると思う	0.7230	-0.1875	-0.0055	-0.1481
1人の温かさを感じられると思う	0.6287	0.1413	0.0474	-0.1033
6客人を温かく受け入れる土地柄だと思う	0.5701	0.1628	0.3351	0.2362
12ステータスやプライドを感じられると思う	-0.0719	0.7274	-0.0936	-0.2541
13知的な気分を味わえると思う	-0.0059	0.6459	-0.0563	-0.5496
9刺激が得られると思う	0.1656	0.5632	0.2222	-0.0024
15自分の知識や視野を広げてくれると思う	0.2226	0.4771	-0.0845	-0.1779
24日常から解放された気分になれると思う	-0.0104	-0.1247	0.5391	-0.0655
23原風景を思い起こさせられると思う	0.0610	0.0196	0.5131	-0.2407
10感性が刺激されると思う	0.3530	0.3267	0.4913	0.0442
7その地域に住む人、集まる人たちの価値観に共感・共鳴できると思う	0.3949	0.3440	0.4496	-0.1868
16創造性を掻き立てられると思う	0.4962	0.1910	0.4232	0.1913
19経済的にゆとりのある暮らしができると思う	-0.0207	0.1031	0.1367	-0.6680
20老後も安心した暮らしができると思う	0.1056	0.0467	0.1220	-0.4269
5人に対して優しくなれると思う	0.4925	0.0568	0.3922	-0.1858
18ゆとりを持った生活ができると思う	0.2087	-0.0266	0.3003	-0.0932
8家族や友人との絆を感じられると思う	0.3649	0.2074	0.0960	-0.0450
21ストレスの少ない生活ができると思う	0.2374	-0.1042	0.2311	0.0607
4その地域の仲間としての連帯感を感じられると思う	0.4774	0.0657	0.1341	0.0881
14夢や目標に近づくことができると思う	-0.0783	0.3248	-0.0308	0.1284
二乗和	3.2079	2.0522	1.7279	1.3704
寄与率	0.1528	0.0977	0.0823	0.0653
累積寄与率	0.1528	0.2505	0.3328	0.3980

第3因子は、「24 日常から解放された気分になれる」「23 原風景を思い起こさせられる」「10 感性が刺激される」「7 その地域に住む人、集まる人たちの価値観に共感・共鳴できる」「16 創造性を掻き立てられる」というように、住む人の開放的な感覚面や地区の原風景を思い出すというような「情緒感覚情緒価値」ともいうべき価値を表す因子である。

第4因子は、「19 経済的にゆとりのある暮らしができる」「20 老後も安心した暮らしができる」がマイナスの因子負荷量を示すなど生活不安に関連する「非ゆとり価値」が形成されている。

これに対して、八幡西区では、「10 感性が刺激され」「3 人と人の心のつながりが感じられる」「17 人生観を変えることができる」「2 人とのふれあいを感じられる」「15 自分の知識や視野を広げてくれる」「4 その地域の仲間としての連帯感を感じられる」「5 人に対して優しくなれる」など良好な住宅環境が形成されているためか、「感性価値」が第1因子となっている。

しかし、その感性価値も第2因子では、「12 ステータスやプライドを感じられる」「9 刺激が得られる」「11 贅沢な気分になれる」が負の因子負荷量を示しているように自己実現を図るほどのものではない、といえる。「非自己実現価値」と表すこととする。

ただし、第3因子では、「24 日常から解放された気分になれる」「18 ゆとりを持った生活ができる」「6 客人を温かく受け入れる土地柄」「14 夢や目標に近づくことができる」「21 ストレスの少ない生活ができる」など「ゆとり価値」を生み出す因子が表れている。これも良好な住宅環境が形成されているためと思われる。

第4因子は、「13 知的な気分を味わえる」がマイナスの因子負荷量をみせている。「非知的価値」という因子が形成されているのである。学研都市や折尾地区の諸大学の知的価値が地区住民に浸透していない結果からくるものかも知れない。地域のブランド価値を高めるために重要な視点であるとここで指摘しておこう。

表 7-4 地域ブランド価値の因子分析結果(小倉南区居住者)

八幡西区居住者(n=103)				
変数名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	感性価値	非自己実現価値	ゆとり価値	非知的価値
10感性が刺激されると思う	0.6646	-0.2618	0.0710	-0.6356
3人と人の心のつながりが感じられると思う	0.6197	-0.0749	-0.0218	0.0948
17人生観を変えることができると思う	0.6096	-0.5161	-0.0305	0.2285
2人とのふれあいを感じられると思う	0.5682	0.0184	0.1455	-0.1732
15自分の知識や視野を広げてくれると思う	0.5644	-0.1505	-0.1895	0.0691
4その地域の仲間としての連帯感を感じられると思う	0.5281	-0.0534	0.1121	-0.0392
5人に対して優しくなれると思う	0.5124	-0.0827	0.2708	-0.1519
12ステータスやプライドを感じられると思う	0.1150	-0.8745	-0.0540	-0.1952
9刺激が得られると思う	0.3018	-0.8272	0.0122	0.1230
11贅沢な気分になれると思う	-0.2095	-0.6833	-0.0350	-0.4109
24日常から解放された気分になれると思う	-0.0418	-0.0243	0.5843	0.1085
18ゆとりを持った生活ができると思う	0.0748	-0.0714	0.5403	-0.0894
6客人を温かく受け入れる土地柄だと思う	0.3187	-0.2070	0.4503	0.3101
14夢や目標に近づくことができると思う	0.0586	0.0653	0.4154	-0.3704
21ストレスの少ない生活ができると思う	-0.0058	0.0858	0.4042	-0.0609
13知的な気分を味わえると思う	0.0129	-0.1233	0.0973	-0.5838
8家族や友人との絆を感じられると思う	0.1933	0.0065	0.2494	-0.1647
20老後も安心した暮らしができると思う	0.0676	0.0966	0.3649	-0.0769
19経済的にゆとりのある暮らしができると思う	0.2455	-0.1729	0.3669	-0.0474
23原風景を思い起こさせられると思う	0.1740	0.0720	0.1309	-0.0283
1人の温かさを感じられると思う	0.4527	0.0082	0.3098	0.0008
二乗和	2.9783	2.4089	1.7783	1.3805
寄与率	0.1418	0.1147	0.0847	0.0657
累積寄与率	0.1418	0.2565	0.3412	0.4070

以上の結果を総括すると、小倉南区は、「関係絆価値」「自己実現価値」「感覚情緒価値」が地区イメージを形成する大きな要因となっているが、経済的生活、老後の生活を心配する「非ゆとり価値」が表れていることに注目される。

これに対して、八幡西区では、良好な住宅地イメージが形成する「感性価値」「ゆとり価値」が大きなブランド価値要因となっているものの、これは自己実現を図ることができるほどのものではない(「非自己実現価値」)ようである。実際筆者が某銀行の支店長にヒアリングした結果では、八幡西区、特に北側の近年開発された住宅地の居住者には比較的多額の預金者が多いという回答を得た。経済的なゆとりはあるものの単に住宅地として環境が優れておりそこから来る住環境の満足度は高いが、例えば、定年退職者の生涯を統合する自己実現を満足させる装置が欠けているということであろう。その証拠が、「非知的価値」が表れていることである。地域ブランド資産の項でみたように、八幡西区では、「教育生活資産」が大きなウェイトが占めていたが、ここではそれが住民の知的価値のレベルまで達していないことを表しているのである。教育・研究機関という資産が住民の価値観と連動していないということである。この点は、当地区のブランド価値を高めるにあたって非常に重要なことである。

(2) 折尾地区のイメージ

① 折尾地区の全体的イメージ

折尾地区ivのイメージを小倉南区居住者、八幡西区居住者全員に尋ねた。質問はSD法(5段階評価)によっているが、ここでは、ウェイト値(そう思うに5点、ややそう思うに4点………の加重平均値)をサンプル数が少なくなるが、下記の居住地別にみておく。

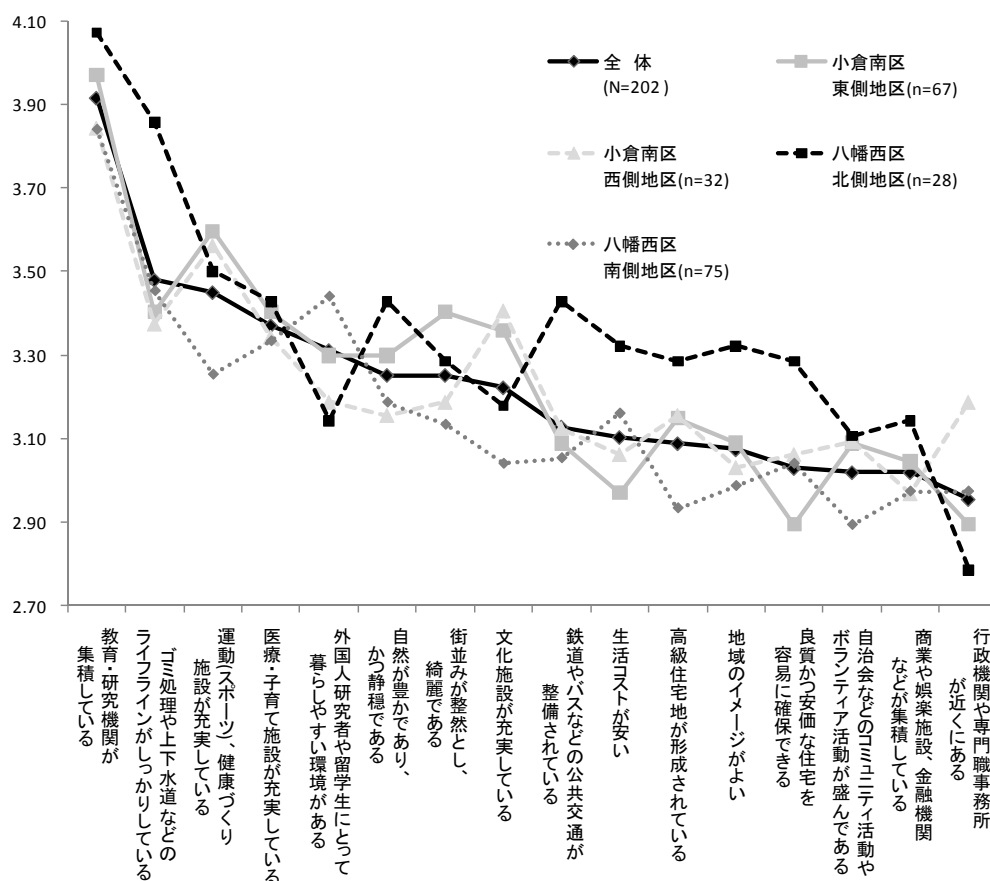


図 7-12 折尾地区のイメージ

これによれば、折尾地区の全体のイメージ第1位は、「教育・研究機関が集積している」ことがあげられていることに注目すべきである。折尾地区に学研都市(正確には若松区ではあるが)が立地していることが、少なくとも小倉南区、八幡西区に居住する全対象者にイメージされているのである。さらに言えば、北九州市民全体のイメージであるかも知れない(検証の必要はあるが)。

第2位以下は、近年になって良好な住宅地が北側に集積しただけに、「ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている」「運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している」「医療・子育て施設が充実している」といった生活基盤の高評価が続いている。

ここで、上図からサンプル数は少ないが、八幡西区北側居住者に限ってそのイメージをみると、「教育・研究機関が集積している」「ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている」はもちろんのこと、「自然が豊かであり、かつ静穏である」「鉄道やバスなどの公共交通が整備されている」「生活コストが安い」「高級住宅地が形成されている」「地域のイメージがよい」「良質かつ安価な住宅を容易に確保できる」といった項目がたの地区よりを上回って第1位に位置づけられていることである。

ただし、「外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある」「行政機関や専門職事務所が近くにある」は最下位となっていることに注目される。八幡西区北側居住者にとって、区役所などが遠いことは事実であろうが、学研都市を標榜する当地区で「外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある」が最下位であることは地域のブランド化に関して大きなマイナス要因である。この点は要注意である。

②折尾地区イメージの因子分析

上記イメージ項目を変数として折尾地区の因子分析を行なった。

まず、小倉南区と八幡西区居住者全体が折尾地区をどのようにイメージしその因子構造がどうなっているかをみる。

第1因子は、「4文化施設が充実している」「5運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している」「8高級住宅地が形成されている」と、ハード的な施設による環境が形成されているという因子である。

表 7-5 折尾地区イメージの因子分析結果(全サンプル)

第2因子は、「15生活コストが安い」「7良質かつ安価な住宅を容易に確保できる」の因子負荷量が高くこれは「生活環境良好因子」と名づけられよう。

第3因子は、「13自然が豊かであり、かつ静穏である」「14街並みが整然とし、綺麗である」「12ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている」「3教育・研究機関が集積している」「2外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある」「6医療・子育て施設が充実している」「1行政機関や専門職事務所(例:弁護士、税理士)が近くにある」「9自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである」「10商業や娯楽施設、金融機関などが集積している」「11鉄道やバスなどの公共交通が整備されている」「二乗和」「寄与率」「累積寄与率」

変数名	全サンプル(N=202)		
	第1因子 施設環境因子	第2因子 生活環境良好因子	第3因子 環境悪化因子
4文化施設が充実している	0.6346	0.2719	0.0233
5運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している	0.6291	0.0428	0.0455
8高級住宅地が形成されている	0.5091	-0.0028	-0.2434
15生活コストが安い	-0.1778	0.6161	-0.1360
7良質かつ安価な住宅を容易に確保できる	0.0620	0.5184	-0.1277
13自然が豊かであり、かつ静穏である	0.0979	0.2164	-0.6760
14街並みが整然とし、綺麗である	0.3649	0.0213	-0.5313
16地域のイメージがよい	0.4521	0.3573	-0.2087
12ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている	0.2567	0.3370	-0.0617
3教育・研究機関が集積している	0.4327	0.0288	-0.0413
2外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある	0.3492	0.2519	-0.0308
6医療・子育て施設が充実している	0.4451	0.3683	0.0390
1行政機関や専門職事務所(例:弁護士、税理士)が近くにある	0.2564	0.3286	0.0928
9自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである	0.1986	0.4914	0.1180
10商業や娯楽施設、金融機関などが集積している	0.2559	0.4403	0.2966
11鉄道やバスなどの公共交通が整備されている	0.1194	0.2774	0.3520
二乗和	2.1982	1.8327	1.1218
寄与率	0.1374	0.1145	0.0701
累積寄与率	0.1374	0.2519	0.3220

はいえない。この点がイメージをマイナス側に誘導したのかも知れない。「環境悪化因子」としている。

次に小倉南区居住者に限って折尾地区のイメージの因子分析を行なってみた。

第1因子は、「14 街並みが整然とし、綺麗である」「4 文化施設が充実している」「5 運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している」「8 高級住宅地が形成されている」と良好な地域イメージが形成されており、「地域イメージ因子」ということができる。

第2因子は、「15 生活コストが安い」「9 自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである」「7 良質かつ安価な住宅を容易に確保できる」であり、「コミュニティ因子」ということができる。

第3因子は、「11 鉄道やバスなどの公共交通が整備されている」のみが高い因子負荷量を示しているが、これはもちろん「交通因子」であり、小倉南区居住者は、折尾地区に対して総じて良好な住宅地で生活しやすい地区というイメージをもっていることがわかる。

八幡西区居住者については、サンプル数が少なくなるが南側居住者と北側居住者に分けて折尾地区に対するイメージの因子分析を行なった。

第1因子は、「9 自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである」「4 文化施設が充実している」「1 行政機関や専門職事務所(例：弁護士、税理士)が近くにある」で構成される「コミュニティ因子」である。

第2因子では、「3 教育・研究機関が集積している」と「学研都市因子」そのものが表れている。

また第3因子では、「13 自然が豊かであり、かつ静穏である」「14 街並みが整然とし、綺麗である」と「自然環境因子」が表れている。

表 7-6 折尾地区イメージの因子分析結果(小倉南区居住者)

小倉南区居住者(n=99)			
変数名	第1因子	第2因子	第3因子
	地域イメージ因子	コミュニティ因子	交通因子
14街並みが整然とし、綺麗である	0.6412	0.0362	-0.2471
4文化施設が充実している	0.6063	0.1456	0.0684
5運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している	0.5625	-0.0004	0.0859
8高級住宅地が形成されている	0.5428	0.1110	-0.0121
15生活コストが安い	-0.2728	0.7080	-0.0754
9自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである	0.0397	0.5573	0.2313
7良質かつ安価な住宅を容易に確保できる	0.0979	0.5178	-0.0598
11鉄道やバスなどの公共交通が整備されている	-0.0032	0.1334	0.7398
10商業や娯楽施設、金融機関などが集積している	0.2574	0.4241	0.4453
6医療・子育て施設が充実している	0.4185	0.3626	0.1563
12ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている	0.3711	0.3504	0.0954
1行政機関や専門職事務所(例：弁護士、税理士)が近くにある	0.1840	0.3985	-0.0022
16地域のイメージがよい	0.4580	0.2627	-0.0848
3教育・研究機関が集積している	0.4685	-0.0477	-0.0970
2外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある	0.2959	0.3247	-0.2478
13自然が豊かであり、かつ静穏である	0.1866	0.2394	-0.3691
二乗和	2.4401	1.9595	1.1294
寄与率	0.1525	0.1225	0.0706
累積寄与率	0.1525	0.2750	0.3456

表 7-7 折尾地区イメージの因子分析結果(八幡西区南側居住者)

八幡西区南側居住者(n=75)			
変数名	第1因子	第2因子	第3因子
	コミュニティ因子	学研都市因子	自然環境因子
9自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである	0.6290	0.0822	-0.0728
4文化施設が充実している	0.6059	0.3655	0.3750
1行政機関や専門職事務所(例：弁護士、税理士)が近くにある	0.6035	-0.0664	0.0893
3教育・研究機関が集積している	-0.1183	0.7160	0.0440
13自然が豊かであり、かつ静穏である	-0.1694	0.0297	0.8508
14街並みが整然とし、綺麗である	0.0268	-0.0776	0.5562
16地域のイメージがよい	0.4568	0.4070	0.4029
8高級住宅地が形成されている	0.0730	0.0910	0.3694
7良質かつ安価な住宅を容易に確保できる	0.2048	0.3641	0.3316
15生活コストが安い	0.0753	0.2737	0.2961
6医療・子育て施設が充実している	0.3849	0.4212	0.2946
5運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している	0.3082	0.2323	0.2252
12ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている	0.0748	0.3694	0.0744
2外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある	0.1576	0.4845	0.0475
11鉄道やバスなどの公共交通が整備されている	0.2543	0.3332	-0.1232
10商業や娯楽施設、金融機関などが集積している	0.4535	0.3532	-0.1670
二乗和	1.9760	1.8841	1.8739
寄与率	0.1235	0.1178	0.1171
累積寄与率	0.1235	0.2413	0.3584

さて、では当該地区居住者である八幡西区北側地区居住者が折尾地区そのものをどのようにイメージしているか、その因子はどのようなもので構成されているかについてみる。

第1因子は、「1 行政機関や専門職事務所(例: 弁護士、税理士)が近くにある」「2 外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある」「4 文化施設が充実している」「6 医療・子育て施設が充実している」「5 運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している」などと学研都市に関連する施設や環境整備に関する因子が表れている。「学研都市因子」である。

ここで、①折尾地区の全体的イメージの項では、「1 行政機関や専門職事務所(例: 弁護士、税理士)が近くにある」は、北側居住者では最下位の位置づけであったが、これは因子を構成する1変数として表れたものであり、この点に関して北側住民が不便を感じていることは事実とみて間違いない。

第2因子では、「16 地域のイメージがよい」「14 街並みが整然とし、綺麗である」「13 自然が豊かであり、かつ静穏である」といった「地域イメージ因子」が表れている。

このように第1、第2因子は学研都市建設が地域に良好な環境要因を与えたことを意味する要因が表れているといえるが、第3因子をみると、「3 教育・研究機関が集積している」は正の因子負荷量となっているが、「15 生活コストが安い」「7 良質かつ安価な住宅を容易に確保できる」は、マイナスの因子負荷量となっている。第1、第2因子では学研都市建設が地域に良好な環境要因を与えたと評価するものであるが、この第3因子は学研都市建設は教育・研究機関が集積しよい地域イメージを形成しているが、それが生活コストの上昇や住宅価格の高騰を招いているというような評価がなされているとみるべきかもしれない。「学研都市非貢献因子」と名づけた次第である。

4. 折尾地区の地域ブランド化

①地域ブランド化の意義

現在各地域において、地域ブランド化が進められている。国もこの点に着目し、経済産業省や農林水産省が政策面で後押しを積極的に行なっている。

ここで地域をブランド化するに至る必然性について少し触れておきたい。筆者の本業である地域マーケティング業務そのものが地域ブランド化そのものであるといっても過言ではないのであるが、その業務内容には自治体の総合計画の作成、平成の自治体大合併の際の新市(町)建設計画、そして地域産物のブランド化計画等がある、これらの業務策定にあたって、よく市民・住民の意識調査を行なう。その際に多くの地域で出てくる問題が「若者が働く場がない」いや、いまや、中高齢者も工場の閉鎖や海外移転により、「働く場がない」というものである。

表 7-8 折尾地区イメージの因子分析結果(八幡西区北側居住者)

八幡西区北側居住者(n=28)			
変数名	第1因子	第2因子	第3因子
	学研都市因子	地域イメージ因子	反学研都市因子
1行政機関や専門職事務所(例: 弁護士、税理士)が近くにある	0.7784	-0.4388	-0.0095
2外国人研究者や留学生にとって暮らしやすい環境がある	0.7625	0.0563	-0.0669
4文化施設が充実している	0.7618	0.0315	0.0736
6医療・子育て施設が充実している	0.5913	-0.2528	0.1747
5運動(スポーツ)、健康づくり施設が充実している	0.5323	0.2297	0.5917
16地域のイメージがよい	0.1707	0.7303	0.0052
14街並みが整然とし、綺麗である	-0.1048	0.6551	0.0032
13自然が豊かであり、かつ静穏である	-0.0427	0.6482	-0.0806
3教育・研究機関が集積している	0.2705	0.1754	0.7639
15生活コストが安い	0.0719	0.2043	-0.5616
7良質かつ安価な住宅を容易に確保できる	0.1888	-0.2370	-0.5336
8高級住宅地が形成されている	0.3603	-0.1391	0.4282
12ゴミ処理や上下水道などのライフラインがしっかりしている	-0.0490	0.4731	0.2545
11鉄道やバスなどの公共交通が整備されている	0.2934	0.2656	0.1504
10商業や娯楽施設、金融機関などが集積している	0.2765	0.2379	0.0545
9自治会などのコミュニティ活動やボランティア活動が盛んである	0.4898	0.3411	-0.0783
二乗和	3.0914	2.3115	1.8606
寄与率	0.1932	0.1445	0.1163
累積寄与率	0.1932	0.3377	0.4540

1980年代頃くらいまではそういう地域でも工場を誘致しよう、ということで広大な工場団地を整備して工場誘致に努めたものである。各地で工場の争奪戦が起こったのもこの頃のことであった。しかしながら、プラザ合意による円高などにより、当時「世界の工場」として急速に台頭しつつあった中国などへ、国内の工場は移転を始めた。いわゆる「国内経済の空洞化」が始まったわけである。

しかし、国内は1990年代に向かって、不動産投資などで異常な地価高騰を招いてしまった。いわゆるバブル時代の到来である。この頃は、1987年制定のリゾート法などにより日本各地ではリゾート施設の整備に熱をあげ一大リゾートブームが湧きあがった。しかし、これらのリゾート施設は、見る影もなくなったというのが現状に近いであろう。リゾート施設も廃業、縮小、転業、身売りにより「働く場」も少なくなってきた。つまり、リゾート、レジャー開発も雇用の場の拡大にはあまり寄与しなかったというべきであろう。その後、バブル経済も破綻し、以来、「失われた20年」ともいえる経済停滞時代が続いた。

この間、批判はあったもののあの手この手で公共投資のバラまきが進んだが、この公共投資も小泉構造改革以来、最近の「事業仕分け」にもみられるように投資額は減少する一方である。近年、地域では確実に雇用の場の減少・縮小が進んだのである。

そこで、地域においてはいかにして雇用の場の確保を行なうのか、それが地域の大きな問題となった。もとより地域主義、地域からの内発的な発展という表現により地域の活性化は数十年前から叫ばれてきた。しかし、上記のような経済状況下では、経済活動の活性化、すなわち雇用の場の拡大は遅々として進まなかったし、人口の減少、少子高齢化も進んだというのが現状といえよう。

そこで、各地域では「交流人口」の拡大に目をつけて、地域外との交流を進め外からの人口の流入により地域の活性化を図ろうとした。その際に最も手っ取り早く効果を発揮するのが農水産物の直売、または、これらを使用した郷土色豊かな地域料理であった。九州での好例が関アジ・関サバをブランド化した旧佐賀関町（現在大分市）である。関アジ・関サバはブランド化による高付加価値化とともに、地域への交流人口の拡大にも成功した。

また、徳島県上勝町では、地域の人々が目も向けなかった資源を新たな観点から商品化することで、「つまもの」という商品のブランド化もさることながら地域のブランド化に成功し、交流人口の増加が進み、その結果都会の若者をひきつけるまでになり、彼らが定住するに至るまでに至り、人口減少に歯止めがかかりつつあるという結果が生まれた。

経済産業省では、地域において各種の素材をブランド化することにより地域そのものがブランド化する、という概念を提唱している。そのイメージは、下図の通りである。

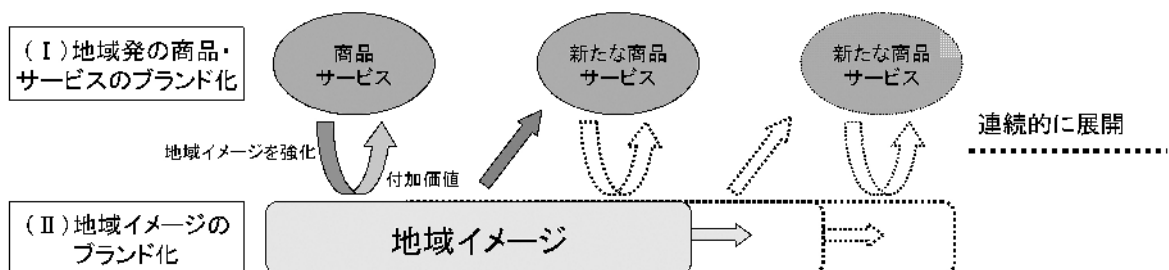


図 7-13 地域ブランドの概念図(経済産業省)

②折尾地区ブランド化の意義

本章の冒頭で、折尾地区のブランド化の可能性について触れた。その主要資源は学研都市により形成された「知の集積」にあるといっても過言ではなかろう。

筆者は、各地の地域ブランド化、地域資源のブランド化業務を行なっている。その理想型は、下図に示すように、地域のアイデンティティを形成・確立するところにある。そのために最も有効な資源が農水産物であることはいうまでもない。



図 7-14 地域ブランドの理想型

北九州市においても、近年、都市ブランド創造課を設置し北九州市のブランド化を図ろうとしている。しかし、各種資料をみる限り食材を主体とした地域資源によるブランド化という考え方が先行しているように見受けられる。

本調査・研究会では、上記のような視点とは異なり、創造的人材“Creative Class”による地域のブランド化という点に着目し、学研都市を展開する折尾地区(広義の)について様々なアプローチを行なってきた。

ここで、本章における地域ブランド構成に関する因子分析調査結果を整理してみる。

◆小倉南地区と八幡西区のブランド資産と価値の相違(寄与率上位3位まで)

- a. 小倉南地区居住者の小倉南区に対する「ブランド資産」因子の主要因子
 - ・非歴史伝統資産因子
 - ・居住環境資産因子
 - ・非歴史資産因子

- b. 八幡西区居住者の八幡西区に対する「ブランド資産」因子の主要因子
 - ・コミュニティ資産因子
 - ・文化芸術伝統資産因子
 - ・教育生活資産因子

- c. 小倉南地区居住者の小倉南区に対する「ブランド価値」因子の主要因子
 - ・関係絆価値因子
 - ・自己実現価値因子
 - ・感覚情緒価値因子

- d. 八幡西区居住者の八幡西区に対する「ブランド価値因子」の主要因子
 - ・感性価値因子
 - ・非自己実現価値因子
 - ・ゆとり価値因子

以上をまとめてみると、小倉南区は歴史や伝統が感じられない地区というイメージが抱かれており、この点がブランド価値を形成する点で少し難点となっていることがわかる。しかし、ブランド価値としては、地域住民の関係絆性から来る自己実現価値や自然や風土が形成する感覚情緒価値が重要なイメージ要素となっている。

これに対して、八幡西区住民が八幡西区に対する地域イメージは、コミュニティ資産や、黒崎祇園、折尾神楽などに代表される文化芸術伝統資産、さらには学研都市を近隣に擁することが寄与したであろう教育生活資産が地域のイメージ構成要因の大きな要素となっている。ただし、これらのイメージ要因が感性価値を形成していることは事実のようであるが、これは自己実現価値を形成するほどのレベルには達していないようである。ただ、比較的近年になって開発された地区であるだけに比較的住民の年齢も若いものと思われ、生活のゆとり価値は形成されているようである。

◆折尾地区の地区イメージ因子の居住地別の相違(寄与率上位3位まで)

a. 全サンプルの折尾地区イメージ因子

- ・施設環境因子
- ・生活環境良好因子
- ・環境悪化因子

b. 小倉南区居住者の折尾地区イメージ因子

- ・地域イメージ因子
- ・コミュニティ因子
- ・交通因子

c. 八幡西区南側居住者の折尾地区イメージ因子

- ・コミュニティ因子
- ・学研都市因子
- ・自然環境因子

d. 八幡西区北側居住者の折尾地区イメージ因子

- ・学研都市因子
- ・地域イメージ因子
- ・学研都市非貢献因子

上記をみると、全体的には、折尾地区は施設環境や生活環境が大変良好になっているとイメージされているものの、折尾駅周辺であろう地区の雑然とした街区が環境的によくないイメージを形成しているようである。ただし、この折尾駅周辺は今後十数年をかけて改良が進む予定であり、この点のイメージ形成は数年かけて改良されるものと思われる。

次に、八幡西区南側居住者の折尾地区イメージ因子をみると、コミュニティ因子とともに学研都市因子が形成されていることに注目される。

同様に、地元である八幡西区北側居住者の折尾地区イメージは、学研都市因子が第1にあがっていることが大きな特長である。当地域を意味づける学研都市が地域イメージの形成に大き

く寄与しているのである。特筆すべき調査結果といえるであろう。したがって、地域イメージも良好なものが形成されており、今後一層地域の発展が期待される。ただし、学研都市非貢献因子ともいえる因子が表れており、学研都市であるがゆえの問題も内包している様子がかがわれることに注意を要する。

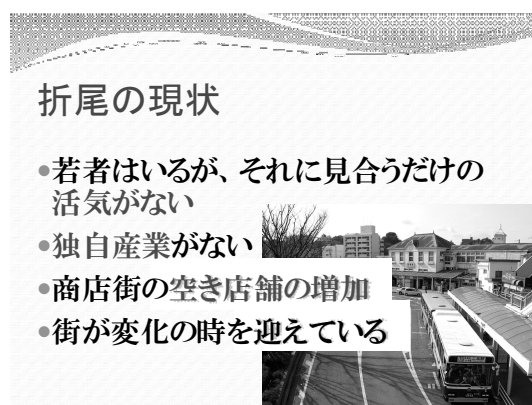
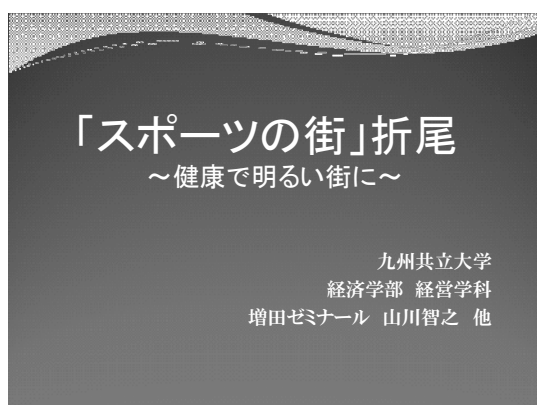
③折尾地区ブランド化の方向性

因子分析の結果からみると、学研都市を核とした折尾地区の地域ブランド化の方向性は、知の集積としての創造的人材(Creative Class)と地域住民との連携、さらには学研都市とは距離的な隔りはあるものの、折尾中心市街地と密接に関連する諸大学の教育・研究・地域連携機能を活用するところにあると断定できる。

現状の折尾地区が、良好な地域ブランドを形成するためには諸問題が存在することは確かであるが、折しも進行する折尾駅前地区の土地区画整理事業によって折尾の核を形成し、後背地区である学研都市との連携が新たな「折尾ブランド」を確立し、北九州市において新たな地域ブランドとなり、地域外、特に宗像地区や福岡地区へ流出する人口の歯止めともなることが期待される。

なお、筆者は北九州商工会議所内の産業政策委員会のアドバイザーを数年務めているが、この委員会の数次にわたる検討結果から、委員会メンバー(企業経営者)が北九州市の若者、特に大学生の北九州のまちづくりに関する意見やアイデアを聞いてみたいということになり、2009年11月に「第1回 北九州の街づくり提言 大学生プレゼンテーション大会」が開催された。その結果北九州市内・外から9大学16チームの参加があり、各種のまちづくり提言が行なわれた。その中に折尾地区のまちづくりに関して注目すべき提案があったので、作成者の了解を得てここにその概要を紹介する。

この提案は、プレゼン大会での受賞は逸したものの北九州市における新たな産業創造のヒントとなる内容を含んでいると、後日開催された委員会で各委員から高い評価を得たものである。折尾地区の各大学が優秀なプロスポーツ選手を輩出していることを地域の資源として捉えた地域ブランド化の方向性を示唆しているといえよう。



折尾、北九州が
活気を取り戻すには...

↓

- シンプルな新しい街のイメージが必要
- 販売と消費が一体となった街づくりが必要

折尾の目指す街とは

「スポーツの街」
折尾

なぜスポーツの街なのか①
スポーツ体質がある

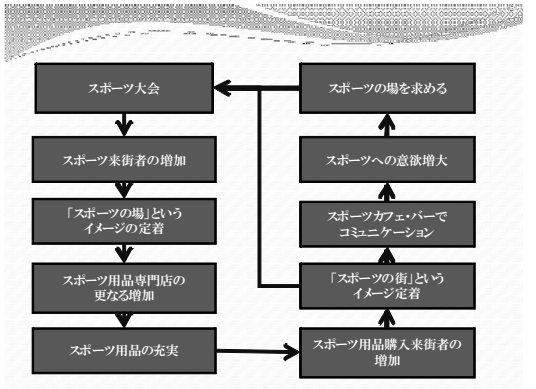
ニューウェーブ
北九州

本城運動公園
陸上競技場

http://www.kitakyu-sports.jp http://www.wave.kyugyo.or.jp http://www77.fcweb.com/stadium/p0/fukuoka/04/fmjy.htm

考えられる事業案

- 総合スポーツ大会の開催
- スポーツ用品店・スポーツジムの集中招致
- スポーツバー・スポーツカフェの展開
- 健康増進のためのオリオ体操の普及



効果

- 折尾のイメージ形成・向上
- 来街者の増加
- 消費活動の活発化
- 住民の連帯感が増す
- 地域住民及び来街者の健康増進
- コミュニティの場の登場により、街に活気が出る

資料：九州共立大学 経済学部経営学科発表資料による。(全スライドからの抜粋)